

いぬなし青葉

令和8年9月7日

第9号

校長 米川 崇



山手中 HP

● 全国学力・学習状況調査の結果より

3年生を対象に4月に実施された令和8年度の全国学力・学習状況調査（国語・数学・英語・生徒質問紙生活調査）における本校の結果について、傾向（強みと弱み等）をまとめました。この調査の目的は、学習や生活の状況を把握するとともに、より効果的な教材や学習の進め方や生活等を検証し、指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。今回の調査は、3年生の4月段階のものです。この結果を踏まえながら、各学年・各教科の指導方法等の改善や生活面等への指導・支援に活かしていきたいと考えます。

● 学力調査からみられる本校生徒の特徴（強み・弱み）

【国語】

すべての分類で全国と比較して正答率が高くなっています。特に、「書くこと・知識・技能・短答式」の分類では2ポイント以上の差がありました。また、「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える」問題や、「表現を工夫して書く」を問う短答式の問題に対する正答率は、全国に比べて高い正答率でした。全体として無回答率が全国や県と比べ低いのも強みの一つといえます。

課題は言葉の使い方に関する問題や記述式の問題にみられます。今後の授業の中で、助詞・助動詞の使い方を確認し、限られた字数の中で自分の考えをわかりやすく書くための練習を行い、伝える力を高められるようにする必要があります。

【数学】

全体的に、ほぼ全国なみの正答率となっています。成果は、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみるような、思考・判断・表現や記述式の問題に粘り強く取り組んでいることです。

課題は、累積度数の意味を理解しているかどうかをみるような、変化と関係の領域に見られます。

今後も授業の中で言語活動・表現活動を充実させるとともに、図形や変化と関係の領域において、図・表・グラフやICTを活用した学習と根拠を説明する活動を充実させ、数学的な見方・考え方の育成を図る必要があります。

【英語】

読む・書くの問題において無解答が少なく、条件の語数を満たして解答している生徒の割合が高いことから、既習の語彙を活用して自分の考えを書こうと粘り強く取り組むことができたと考えられます。一方で、説明文を書く問題には課題が見られ、全国よりやや低い正答率となっています。

今後も授業において、時制を意識しながら音読する機会を設けるとともに、まとまりのある英文を要約し、その内容を相手に説明する活動を充実させることで、内容の理解と表現力の向上を図っていきます。

● 今後の取り組み

- ・長期休業中、全学年の補充学習・質問会を引き続き実施していきます。
- ・定期テスト前の部活動停止期間を利用し、テストに向けた質問会を引き続き実施していきます。
- ・効果的な家庭学習につなげられるよう、ICT機器やクラウド技術を活用した課題提示の技術向上の研修を行っていきます。
- ・教育委員会の指導主事を要請し、自己選択（調整）学習に向けた研修会を持ち、「興味・関心のある内容」「自分の課題を解決する内容」などに計画的に取り組めるような、授業改善を行います。

● 生徒質問紙からみられる特徴

【学習面】

授業時間以外の学習時間(学習塾・家庭教師等を含む)について、平日の学習時間:「1時間以上」(本校 62.2%、県 61.7%、全国 61.6%)は全国なみであることがわかりました。ただ、「30分以下」「全くしない」の合計(本校 21.7%、県 18.7%、全国 18.4%)の割合が高く、家庭学習における意識の差が大きいことがわかります。タブレット等を活用して、学習の振り返りを家庭と共有し、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図っていきます。

学校での授業についての質問では、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」(本校 96.2%、県 92.9%、全国 92.4%)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」(本校 88.3%、県 86.8%、全国 85.2%)の調査結果から、クラスメイトと相談・協力できる授業環境があり、意欲をもって学習に取り組んでいる様子もうかがえます。

「授業の内容はよくわかりますか」国語(本校 86.1%、県 80.5%、全国 76.8%)、数学(本校 75.0%、県 79.9%、全国 75.2%)、英語(本校 88.9%、県 87.1%、全国 87.6%)

「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」国語(本校 91.2%、県 89.1%、全国 88.2%)、数学(本校 67.2%、県 78.6%、全国 76.5%)、英語(本校 88.9%、県 87.1%、全国 87.6%)という調査結果でした。「将来、社会に出たときに役に立つ」と思いながら授業を受けられることは、学習意欲や定着に大いに結び付くと考えられます。それが意識できるような授業内容の改善が必要です。

ICT 活用に関しては、文章作成や情報の収集に関する技能の肯定的回答は全国平均を大きく上回りましたが、整理(表やグラフを使ってまとめる)や発表に関しては苦手意識があるようです。昨年、ICTの基本操作、生成AIの活用方法を身に付けさせるために、デジチャレの時間を月1回設定しています。また、教科授業のほか、学年・学校集会等でも、ICTを活用した学習成果を発表する活動を充実させたいと考えています。



【生活面】

「毎日、同じくらいの時刻に寝る」「朝食を毎日食べていますか」など基本的な生活習慣に関する設問に、それぞれ 84.5%、91.1%の生徒が肯定的な回答をしています。これは、いずれも全国(80.5%、90.9%)と比較して少し上回っています。ただ、「毎日、同じくらいの時間に起きる」(本校 88.9%、県 92.7%、全国 92.4%)は、平均より低くなっています。朝練がない日も、同じ時間に起きる習慣をつけることは、授業への集中力や熱中症などの対策にもなると思います。頑張りましょう。

「自分はよいところがあると思いますか」(本校 88.3%、県 84.1%、全国 84.0%)「先生はあなたの良いところを認めてくれますか」(本校 92.8%、県 91.3%、全国 90.9%)「友達関係に満足していますか」(本校 94.4%、県 91.1%、全国 91.2%)の調査結果から、多くの生徒が教師や級友と良好な関係を築けており、学校生活を有意義に感じていることが分かります。今後も、日々の授業、部活動、学校・地域行事など教育活動全体の中で、支え合い認め合える仲間づくりに努めたいと考えます。



最後に、気になるのは「将来の夢や目標を持っていますか」という項目です。(本校 67.3%、県 68.4%、全国 67.6%) 山手中の生徒が特に低いということではないのですが、3割以上の中学生は、まだ将来の夢や目標が持てないまま日々の学習などに取り組んでいるのだということがわかります。

いよいよ2学期、せっかく級友とも先生ともよい関係が作れているのですから、様々な活動のなかで、夢や目標について語り合える場が持てるとよいと思います。もちろん家庭でもお話する機会を増やしていきましょう。